

科目	心理アセスメント実習Ⅱ A	単位数	1
担当教員	櫻井 秀雄、栗村 昭子		
履修対象	心理学科3年秋学期		
目的	臨床場面でも特に重視される個別式知能検査や投射法について、体験学習と講義の二本立てで学ぶ。		
達成目標	「知識・技能」 (1)個別式知能検査を部分的に施行することができる。 (2)ロールシャッハテストのサイン化の意味を理解できるようになる。 (3)集団式検査と個別式検査の違いを正しく理解する。 (4)知能検査の種類と知能指数の考え方の違いについて説明できる。 (5)投射法と質問紙法の違いを正しく理解する。 「思考力・判断力・表現力」 (1)代表的な知能検査の用い方がわかるようになる。 (2)投射法の基礎理論についてわかるようになる。 (3)知能検査、投射法の限界や倫理についてわかるようになる。 「主体性・多様性・協調性」 (1)個別式検査を積極的に体験する。 (2)自分自身で心理検査の解釈を試みる。		
授業計画			
1	はじめに、アセスメントとは／授業のやり方、約束事、歴史的背景の紹介 (担当:栗村・櫻井)		
2	アセスメントの基礎知識(1)／投射法の基礎知識の獲得 (2~8回 担当:栗村)		
3	アセスメントの基礎知識(2)／ロールシャッハ・テストの基礎知識の獲得		
4	アセスメントの基礎知識(3)／ロールシャッハ・テストの基礎知識の獲得		
5	アセスメントの基礎知識(4)／描画テストの基礎知識の獲得		
6	アセスメント実習(1)／描画テストの施行法と解釈理論の獲得		
7	アセスメントの基礎知識(5)／SCTの基礎理論の獲得		
8	アセスメントの基礎知識(6)／SCTの基礎理論の獲得		
9	アセスメントの基礎知識(7)／知能検査の基礎知識の獲得 (9~14回 担当:櫻井)		
10	アセスメント実習(2)／知能検査の施行法の獲得 (WISC)		
11	アセスメント実習(3)／知能検査の施行法の獲得 (WISC)		
12	アセスメント実習(4)／知能検査の施行法の獲得 (K-ABC)		
13	アセスメント実習(5)／発達検査の施行法の獲得 (新版K式発達検査2001)		
14	アセスメントの基礎知識(8)／知能指数の基礎理論と算出方法の獲得・知能検査のまとめ		
15	倫理とまとめ／倫理についての知識の獲得と平常試験 (担当:栗村・櫻井)		
授業形態／具体的な内容	講義・演習		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
指定教科書なし			
参考書			
成績評価の基準・方法	基準 当該達成目標である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協調性」が達成できれば合格。 方法 授業態度、試験により、平常試験(80%)、授業での発言および個別式検査実習時の主体性など授業への貢献度(20%)として、それぞれ各担当者の評価を合計して総合評価とします。		
留意点	臨床心理アセスメントⅠと同様、授業で使用する心理テスト用紙を持参して本講義に臨むこと。私語、大幅な遅刻は認めない。		
準備学習	準備学習 特に予習は必要としませんが、復習を確実に履行してください。		
備考		No.	PY422003